

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：鎌田陽子
(出雲市立第二中学校)

編集：情報部

VOL.56 2016.3.3 (雛祭号)

発行責任者 蘿 恵 (川本小学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 学校事務職員の皆さんに学んだこと
(松江教育事務所長 奥村忠孝)
- ▶ 研究部の取組
- ▶ 学校事務セミナー参加者の感想
- ▶ 研修報告
- ▶ 奥出雲町の学校事務共同実施
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



学校事務職員の皆さんに学んだこと

松江教育事務所長 奥村忠孝

昨年、島根県公立小中学校事務研究大会に参加し、閉会式で一言述べる機会をいただきました。研究大会の内容についてコメントしてほしいとの依頼だったのですが、考えを巡らせてみると、自分自身がずいぶんと学校事務職員の皆さんから学んできたことに気づきました。それを3点ほど紹介してみたいと思います。



○ 向上心の高さ

事務職員の皆さんのスキルアップの願いにふれる機会がありました。その時に自らの力量を高めていこうとする意識の高さに驚いたことがあります。「いろいろな校種を経験してみよう」「様々な規模の学校に勤めたい」など、様々な経験を積むことにとっても積極的だったからです。新しい挑戦には、それなりの負荷がかかるものですが、それを厭わず自らやっという姿勢が立派だと思いました。

○ 協調性の高さ

以前、私は、教頭をしながら担任をやり、加えて事務の仕事も一部したことがあります。その時に事務グループの皆さんに助けていただいたことがあります。共同の事務作業を私の勤務校でしていただき、納品書、請求書や市への請求手続きのチェックをしてもらいました。自校のチェックだけでも大変でしょうに、他校の分も笑顔でやってくれました。その協調性の高さに今でも感謝しています。島事研の共通視点である「前向きな世代交代」という言葉や意識も、この協調性の高さゆえ生み出されたものなのでしょう。

○ 事務は思いやり

3点目は、「事務は思いやりが大切」ということです。今まで一緒に勤めた事務職員の皆さんの仕事を見ると、その仕事の端々に思いやりを見つけることができます。判断が必要な文書のポイントとなる部分に付箋がはってあったり、手間を省くために参考文書が添付されていたり、印が押しやすいようにクリップ等がずらしてあったりと、一見細かいことのように見えますが、自分の次の人が仕事がしやすいように細やかな心遣いがなされていることがよくわかりました。

まさに「事務は思いやり」であると感じると同時に、どの仕事でも大切な姿勢だなと学びました。

まだまだ事務職員の皆さんから学んだことはたくさんありますが、どうぞ、これからもそのすばらしい姿勢を大事にさせていただき、次の時代へもつなげていただきたいと思います。

研究部の取組 ~『島事研の研究活動に対する実態調査』集計結果報告~

前回発行された「爽」では、『わくわく実践ナビの活用状況調査』についての集計結果と簡単な分析を報告しました。今回は『島事研の研究活動に対する実態調査』についての結果を報告します。

この調査は記述部分が大変多く、会員の皆さんにはお忙しい中、記入に時間を割いていただきましたこと心より感謝申し上げます。厳しいご意見も数多くいただきましたが、それだけ島事研研究部また島事研の活動に期待を寄せていただいていることと、前向きに受け止めております。

今後、会員の皆さんがより質の高い学校事務を展開されるための一助となるよう、研究部では調査結果を活用しながら取組を提案させていただきます。

なお今回は、記述式以外の設問の集計結果報告のみとさせていただきます。分析については、今後慎重に行い、第五次研究中期計画の推進はもちろんのこと、平成31年度全事研大会発表に向けての取組、また島事研研究部活動全般へ活用していきたいと考えております。

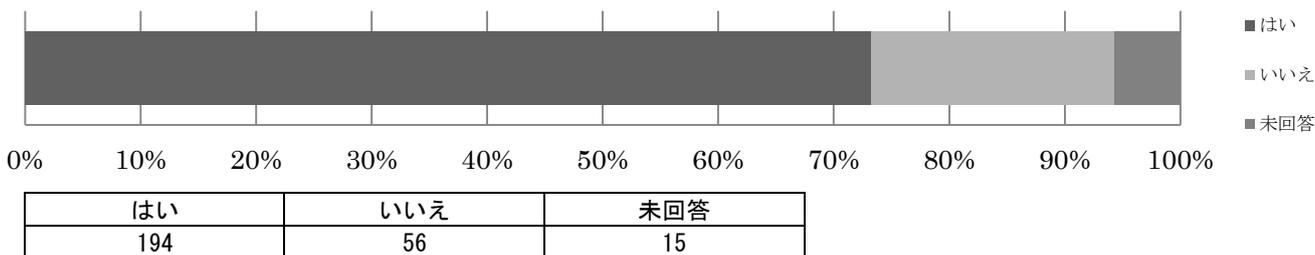
回答者数は265名で、前回の『わくわく実践ナビの活用状況調査』同様、約8割の回収率となりました。重ねてお礼を申し上げます。集計結果は下記のとおりです。

▽「島事研の研究活動に対する実態調査」結果▽

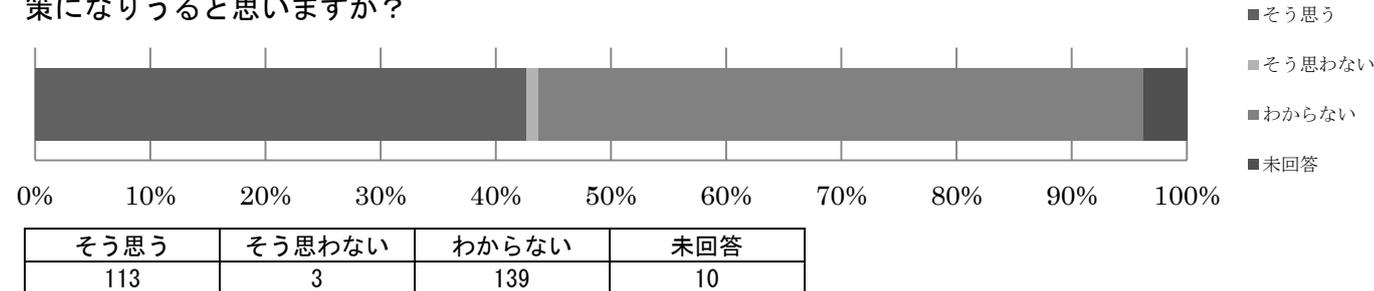
設問(4) 学校事務職員に研究は必要だと思いますか？



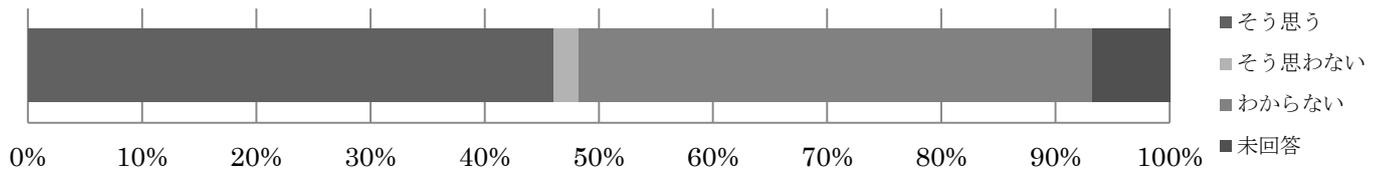
設問(6) 第五次研究中期計画は関心が持てる内容ですか？



設問(9) 第五次研究中期計画は島事研のミッションや目標を達成するために、有効な方策になりうると感じますか？

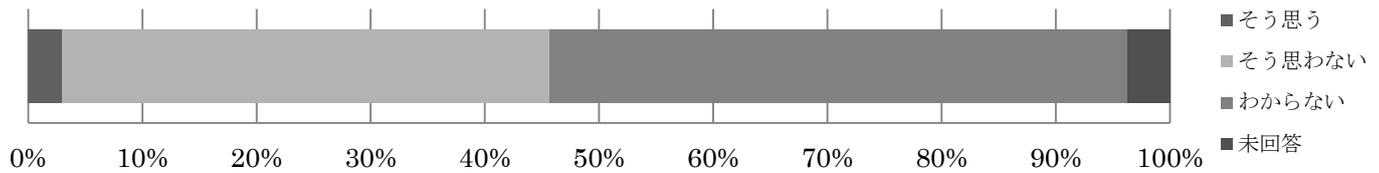


設問(11)第五次研究中期計画は業務改善の手立てになると思いますか？



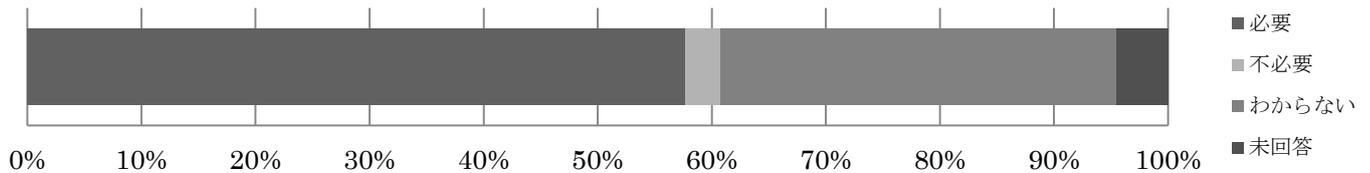
そう思う	そう思わない	わからない	未回答
122	6	119	18

設問(13)島事研研究部の提案している研究は定着していると思いますか？



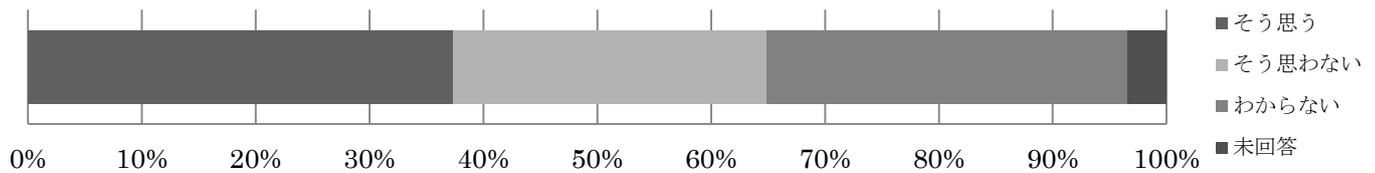
そう思う	そう思わない	わからない	未回答
8	113	134	10

設問(15)島事研による研究活動は必要だと思われますか？



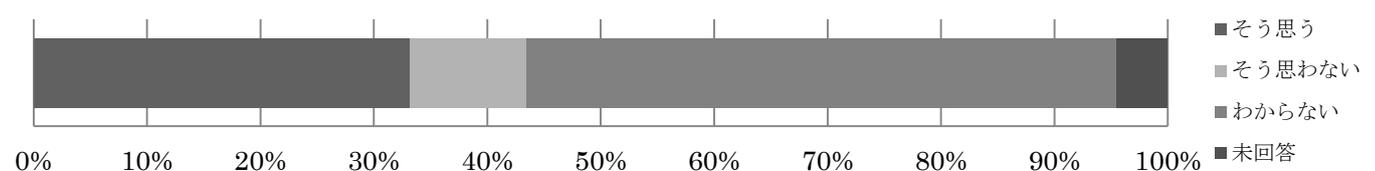
必要	不必要	わからない	未回答
153	8	92	12

設問(17)島事研の研究を負担に感じるがありますか？



そう思う	そう思わない	わからない	未回答
99	73	84	9

設問(19)島事研の研究は会員に還元されていると思いますか？



そう思う	そう思わない	わからない	未回答
88	27	138	12

第五次研究中期計画1年目が終わりました。来年度は今回の調査結果を生かしながら、会員の皆さんに具体的な取組を提案していきますので、引き続き、よろしくお願いいたします。(文責 研究部長 岡田由美)

平成27年度

中国地区公立小中学校事務研究大会

第12回

島根県学校事務セミナー

参加者の感想

1月22日

ピッカート出雲

第1分科会「学校財務管理」 助言講師：宍道高等学校 事務長 安達清心 様

【山口支部】

「『教育活動と学校事務』

～『財務』をテーマとした、平成27年度の取組について～

【島根支部】

「施設修繕リスト&カルテを生かして、全職員で取り組む学校財務管理をめざして」

山口県の皆さんが作られた4つの「つ」に基づくシートは、若手の自分にもとても分かりやすく、目標を定める際に利用したいと感じました。また、私の学校では、事務職員が安全点検を行っているので邑南町の皆さんが作られた「リスト&カルテ」を参考にさせていただきたいと思いました。いいシステムや管理方法を教員に伝え、利用してもらうということは、どの学校でも難しいことなのだと改めて感じました。その中でも、工夫して変えていくためには何ができるのかを考えたいと思います。

財務について、ぼんやりとしか把握できなかったが、具体的な提示で、糸口が見えてきたように思う。各職務にあった目標が見え、方向性が定まるのではないかと感じる。(山口支部)

修繕の情報をシステム化し、集約することで、一目で分かる上に、次回修繕に役立てるということで、少しずつ取り入れていければもっと効率よい学校運営ができるのではないかと感じた。(島根支部)

第2分科会「危機管理」 助言講師：新潟大学大学院 准教授 雲尾 周 様

【広島支部】

「学校の危機管理 ～スタッフの仕事・学校事務職員の仕事～」

【島根支部】

「防災マニュアルの作成 ～松江市避難所運営マニュアルより～」

「ICTによる危機管理とICTに関する危機管理」

～安心なICT環境構築への課題～

ある情報だけでなく、情報を集めて、多角的な視点を持って考えることの大切さを再認識した。しかし、本当に大切なことは、実際に体験し、苦労しなければわからず、身につかないだろうと強く思った。

自身の危機への意識の低さを自覚させられる内容だった。学校に戻り、自分の役割や、いざというときに必要な役割を担えるように準備や心構えをしていきたい。



危機管理について課題は感じていたが、分掌で割り当てられていないことから、どうしたらよいか分からない状況だった。教頭との連携の重要性や危機管理の視点の持ち方について、非常に参考になった。

第3分科会「人的資源管理」 助言講師：島根大学 理事 松浦晃幸 様

【岡山支部】

「共同実施と人材育成 ～津山市の事例から～」

【鳥取支部】

「鳥取県学校事務職員の行動変革のための取組」

～とりビジョン改訂とビジョンに近づくためのカイゼン～

人材育成の工夫をチーム津山から学ぶことができた。とても前向きな気持ちになりました。先輩方の後ろ姿をしっかり見てリーダーを補佐する立場を理解してやりがいを持って共同実施をすすめていきたいです。

2県の実践発表を聞いたが、やはり「仕組み」の強さ、大切さを実感した。仕組みを作るために、一部ではなく、全ての職員が意識を持ち、改善に取り組む必要を感じた。

共同実施を通して、人材育成を図ることを自分が参加している共同実施に取り入れたい。大変参考になりました。

組織として明確化されている点、すばらしいと思いました。子どもにとってプラスになる共同実施を一緒に置いて進めているところ等参考にしていきたいです。

講義 講師：新潟大学大学院 准教授 雲尾 周 様

演題 「生涯学習時代における学校教育と地域連携」

～チーム学校と地域学校協働本部～

学校の多様化にともない、今までのあり方では、補いきれない現状の中で、地域の人も巻き込み、「チーム学校」としての取組を、表からも裏からも学校事務職員は携わっていき、これからの可能性を感じました。

コミュニティスクールにおける事務職員の役割について悩んでいましたが、少し方向が見えたような気がしました。求められる役割もどんどん増えていますが、「子どもたちのため」に頑張っていけそうです。

地域とともにある学校づくりといわれてきましたが、よく分かっていない事が多くありました。(スクールリテラシーというそうです)地域の中の学校として、教育防災機能の拠点として双方が役割、ニーズなど理解し合う必要性を強く感じました。

研修報告

「地域とともにある学校づくり」 推進フォーラム(東京会場)レポート

情報部(江津市立津宮小学校) 久保田 雅之

2004年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、コミュニティ・スクール(以下CS)が法的に定められた制度としてスタートして10年以上が経過し、全国的にCSを実施する学校が増えてきた。島根県内でも、出雲市立全小・中学校や大田市の一部地域でCSを導入しており、学校運営に保護者・地域住民が参画している。今回のフォーラムでは、CSの推進を含め、10年が経過したCSの成果・総括や今後の展開について説明・発表がされた。

文部科学省の行政説明の中で、CSを導入する際にしばしば「保護者・地域住民が学校経営に参画することで、運営がし難くなるのではないか」と学校から意見が出て、敬遠されやすいという話があった。しかし、学校運営協議会の最終決定権は校長にあり、委員が決めるわけではないため運営を妨げるものではない。また、学校運営協議会は教職員の任用に関する意見をすることも可能だが、それはあくまで要望として出すだけで任命権の行使を阻害するものではなかった。現に、CS指定校のほとんどの校長も指定前は任用への意見申出に不安を覚えていたが、指定後実際にCSを実施してその不安は解消されたと調査でも分かっている。ちなみに、要望の多くが社会教育主事やその地域に必要な能力を有する教職員の配置を希望するなど人材の要望であった。こうした資料を示すことで、CSに対する誤解や不安を一つ一つ取り除いていくことが、CS推進において重要なことである。

実践発表では、学校事務職員がCSコーディネータとして学校と地域とのつなぎをしている小学校の発表があった。事務職員が学級担任と行事の打ち合わせをし、それを基に地域の学校支援組織との日程・人材調整をするなどその業務内容は多岐に渡る。発表された事務職員の方は地域とのつなぎをする上で、その地域をよく知る地域コーディネータの存在が重要になると言っておられた。CSを実施する上で、地域・CS両コーディネータの存在が不可欠なのだと感じた。



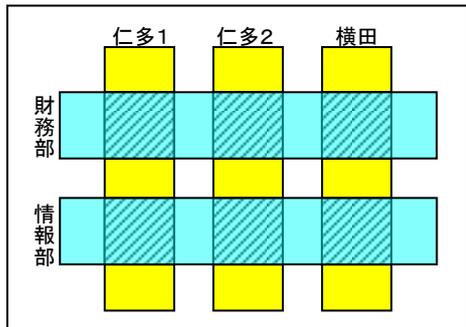
今回、全体を通してCSが秘める可能性が見えたように感じた。文科省もCSには力を入れていて、担当者の方は出来れば全公立学校にCSを導入したいと熱い思いを語られた。そのために財的・人的予算も確保していて、地方行政の財源を必要とせずCSを導入出来るため、是非教育行政の担当者にもこのフォーラムを聞いていただきたいかった。CSを導入するにあたり、教職員の仕事量の増加など課題はあるが、校内業務の効率化を図りながら進めることで、最終的に子どもたちの成長や教職員の負担減などに良い効果が出てくると思う。

なお、文部科学省が平成27年7月に発行した「学校運営協議会設置の手引」にCSについての説明だけでなく、CS指定校の成果やCS指定前後での教職員の意識の変化についても言及しているため、文部科学省HPの下記URLより是非ともご覧になってほしい。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/school/detail/1361007.htm)

奥出雲町の学校事務共同実施について

横田中学校 田部明裕



奥出雲町では平成16年度（旧横田町の時）から共同実施を始め、今年度末をもって12年が経過します。

3つに分けた地域グループと、2つの専門部による活動を行っており、図にすると縦軸が地域グループで、横軸が専門部です。地域グループでは各学校の事務が全校で効率的かつ滞りなく行われるように協働する、また専門部では町全体の業務を担当者が専門的に行う、縦と横の活動が合わさって機能する共同実施システムであり、これまで何度か組織改善を行いながら、当初よりずっと継続してきたスタイルです。

現在、1名の加配を受け12名の事務職員で下の一覧表にあるような業務を行っていますが、新規採用者や事務職員の未配置校、また事務職員が休暇等で不在となった場合の計画的な支援も含まれます。長年の取組によって、学校運営上の情報の収集、分析、活用等における質の向上と、教員の直接的な教育活動にかかる時間確保。また、町の特色を活かした各学校の自主的活動の充実等が出来たと考えています。

この共同実施が順調に行われるのも、推進組織である奥出雲町学校事務共同実施協議会の組織や、関係の規程がしっかりしており、教育委員会、校長会、教頭会との連携、そして人と人との関係が理想的に成り立っているからだと思います。こうした好環境を基盤にし、今後、事務職員は「専門的スタッフ」から「専門スタッフ」に、また共同実施は「組織的活動」から「組織活動」へと進化し、チーム学校の専門スタッフとして確実に学校経営を補佐できるよう能力と機能をさらに高めていきたいと考えています。

【平成27年度業務一覧表】

部等	業務	業務内容
財務部	小中学校教育振興交付金	校長会打合せ・調整、申請書取りまとめ、申請手続、交付金代理受領・配分、資料・報告書取りまとめ、報告手続
	予算要望	町教育委員会・校長会・各校との連絡調整、データフォーマット作成、資料・データの収集・調整、要望書印刷製本、要望活動・ヒアリング対応
	児童生徒輸送バス	連絡調整・運行計画作成（連合体育会、水泳記録会、連合音楽会、演劇鑑賞会、たたら体験学習） バス使用状況調査・予算配分調整、請求書取りまとめ
	共同購入・印刷等	共同印刷・共同購入及び作成支援（共通封筒、各校封筒、学校日誌、出席簿、健康診断票、児童生徒保健カード、出勤簿、指導要録、文書ファイル、ファイルラベル）、手数料調整
	備品管理	共同備品台帳システムの運用管理、特別支援教育共通備品活用システムの運用
	マニュアル管理	学籍事務マニュアル
	連絡調整	学校予算に関すること（町教育委員会、校長会、各校他）
情報部	文書管理支援	文書分類表整備・一括管理、共同受付簿システム運用管理、ファイルラベル作成システム運用管理、文書共同廃棄
	グループウェア活用推進	グループウェア設定・活用推進、Eメールアドレス発行管理
	共同ファイルサーバー活用推進	学校間共有フォルダー、共同実施フォルダーの管理
	情報提供	共同実施会だより発行、グループウェアによる情報提供
	教職員用PC等管理	ICT推進、ネットワーク情報管理支援
	マニュアル管理	事務の手引き、様式集の整備（管理、服務、給与、旅費）
	情報発信	文字放送対応、ふるさと理解促進券作成、校務支援ソフト提供
連絡調整	学校の情報化に関すること（町情報担当課、町教育委員会、校長会、各校他）	
地域会	地域会議・全体会議実施	各校事務および専門部業務の推進、共同処理、実務研修、情報交換他
	相互支援	初任事務職員の支援、病気等による事務職員不在時の支援、事務職員未配置校の支援
	県教研仁多大会推進	運営委員会参画および共同実施組織による支援
企画委員会	企画・運営	共同実施協議会および共同実施会の運営全般、共同実施評価、事務研究会・研修会への参加推奨、その他運営に関する必要事項



教育委員会の声

◆我が町の誇るべき「共同実施協議会」

奥出雲町教育委員会 教育長 安部 隆

我が町の共同実施協議会の組織・メンバー・取組の内容や方法・実績に、わたしは誇りを感じている。①来年度予算要求の資料作りや小体連陸上、芸術鑑賞会等、全町上げての活動におけるバスの手配等を初め、教員の事務負担軽減、②事務職員未配置校のサポート、③常に実態把握をしながら行っている組織の見直しや改善、④各校事務の効率化・合理化を図ると共に、お互いの資質向上のための方策等が挙げられるが、一番誇るべきことは、12名の事務職員による協働の姿勢とチームワークであろう。

この様に誇るべきことは多々ある中で、期待していることは、魅力的な取組やドラマを集積し、分析・考察を加えて「実践研究」としてまとめることへの挑戦である。本町では小中学校長会が、既に共同研究「ふるさと教育と奥出雲の子どもたち」を刊行し、体験的な学習と学力向上のかかわりについて仮説を生み出し、各方面から高い評価を得ている。これに続いて欲しい。もっと欲張れば、事務職員の仲間から管理職が誕生してほしい。

管理職の声

◆前向きに成長し続ける 奥出雲町学校事務共同実施

仁多郡小・中学校長会 会長 安部茂寿

本町学校事務共同実施は、開始以来12年を経過しようとしています。専門部を3つから2つにするなど見直しを図り、奥出雲町の教育を支え続けています。また、県内でも共同実施の魁として、学校事務の研究をリードする存在として成長しています。

本町共同実施の特色ある取組をいくつか紹介します。まず、本年度は仁多郡で第56回島根県教育研究大会が開催されました。その運営委員として共同実施会から6名が参画し、事務局の予算立案や執行、総務部の大会参加者関係の事務、運営部の発表機器準備等、多くの役割を受けもち、研究大会成功へと導いていただきました。次に、昨年度より高尾小学校の事務職員が未配置となり、本会が事務支援を行っています。年度当初には、「H27 事務職員未配置校（高尾小学校）事務支援分担表」を作成し、会合もできるだけ高尾小学校で実施するなど支援体制が整ってきています。さらに、本町の特色ある教育活動である3日間の「たたら体験学習」の輸送計画等、継続して取り組んでいただいています。このように奥出雲町の教育は、共同実施が基盤となり、チーム奥出雲として機能しているといっても過言ではありません。

これから少子化による教職員数の削減、多忙感の解消や教員の子どもの向き合う時間の確保、大量退職時代の到来と新規採用教職員の増加など大きな課題と直面します。しかし、共同実施12年の実績と、もしまえのマネジメント力を駆使すれば、本会はこれからの10年も、前向きに成長し続けると確信しています。「チーム奥出雲」をキーワードとして…。

人権 コーナー

私が中学生だった頃の 思い出から

出雲市立西野小学校 馬庭志津子

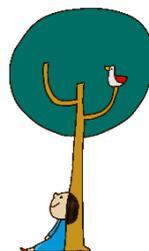
中学校を卒業してから大分経った。私の通った中学校は1学年350人近くいて8学級もあった。私たちの学年だけなぜか3年間クラス替えがなかった。おかげで今でも毎年クラスの同窓会を開き旧交を温めている。集まるのはだいたい同じ顔ぶれになってしまったが、担任だった先生も元気に参加してくださり、とりとめもない話をしてひとときを過ごす。

中学生時代の思い出といってもほとんど忘れてしまったが、忘れられない出来事がひとつある。これまで誰にも話したことがなく心の奥底にしまっている苦い思い出。私自身本当にあった出来事なのか現実感が薄れてきているが確かにあったことだ。

今では信じられないことだが、当時は学級委員が集金を集め担任に渡していた。その月の集金がまだ数人集まらず、私はその朝もある子に「持ってきた？」と聞いた。その子は「もう出したよ」と言ったが、(この子はいつも遅いからまだに決まっている、この子は思い違いしている)と決めつけて、私は「まだ受け取ってないよ」と返した。その子は困ったような顔をして「もう出したのに・・・」と。

私はもう一度名簿を見てその子から受け取っていたことに気づいた。思い違いをしていたのは私のほうだった。「もらってたわ、ごめん」と、後ろめたさもあってかそっけない謝り方だったように思う。先入観の固まりだった私はその子をすごく傷つけてしまった。極端な言い方をすれば集金する側の強い立場で、いつも集金が遅くなる弱い立場の人を傷つけたのだ。許されないことであった。

この出来事はそれからずっと私の中に消えずに残っている。時々ふっと思い出されて申し訳なく恥ずかしい気持ちをよみがえらせている。



Vol.33 おたん Nice to meet you!!



原作:千葉ひろみ 画:大橋幸子

【編集後記】1月末の大雪には本当に驚きました。停電や断水、雪かき、ガタガタ雪道の通勤など、いろいろ大変な思いをされた方が多かったのではないかと思います。まだまだ寒い日が続いていますが、暖かい春が待ち遠しいかぎりです。今年度、広報部から「情報部」へと名前が変わり、「爽」のページ数も増え、変化のあった27年度ですが、年3回の「爽」を無事発行することができました。皆様のご協力に感謝です。ありがとうございました。(A・O)